令和6年度

試験名：個別学力検査（後期日程）　　【　人間学群　教育学類　】

区　分	標準的な解答例又は出題意図
論述	**問題** 次の文章を読み、以下の二つの問に対して解答しなさい。 （この部分は、著作権の都合により公開できません）

（この部分は、著作権の都合により公開できません）

【出典】岡本裕一朗著『ポスト・ヒューマニズム－－テクノロジー時代の哲学入門－－』NHK出版、2021年、22-25頁。（一部改変）

【問１】

文章中の下線部「学校・教養モデルとしての近代人文主義の時代は終焉した。」とはどのような意味か、200字以内で説明しなさい。

【問２】

人工知能を含むテクノロジーの高度な発展が人間に与える影響を説明した上で、子どもたちに対して学校でどのような教育を行う必要があるかを、800字以内で論じなさい。

出題の意図

後期日程の試験では、論述により応答性、論理性等を評価することになっている。本問題においては、近年のテクノロジーの高度で急速な発展が人間のあり方に与える多大な影響について論じている文章を読ませ、文章の内容に関連する二つの問いに論述形式で解答させることによって、問いに対する応答性と論述における論理性を評価する。

【問 1】は、現代のデジタル情報通信社会の成立によって、従来の形の近代人文主義的学問、およびそれに基づく人間形成モデルが終焉したことを示す文章を要約することを求めている。著者が述べているとおり、引用文自体は明解な文章であるとは言えないとしても、その次の二段落にわたる著者の説明をふまえれば、下線部の意味を理解することができる。

（解答例）

デジタル情報通信社会の成立によって、ルネサンス以降の近代社会において活版印刷術が可能性を広げ発展していった、書物の研究としての「人文主義」と人間を思想の中心に置く「人間主義」とを刷新するとともに、そうした近代人文主義的学問を教え、人間形成の基盤としてきた従来の学校像、および教養像が一般的なものではなくなり、人間が共生していくために必要となる共通基盤が新しい姿に変化した、という意味である。

【問 2】は、文章を踏まえて、テクノロジーの発展が人間の生に与える影響を考察、評価し、その影響を前提として、学校教育が子どもの教育に果たす役割について論じさせる問題であり、解答によって教育への関心、および＜応答性＞と＜論理性＞を兼ね備えているかを判断しようとするものである。

著者は文章の後半で、人工知能を含め「これまで人間にとって道具と見なされ

	てきた機械が、人間の能力を超越し、人間の営みを左右するものになる」とする予測を示し、理性によって世界を支配しようとしてきた近代的人間像を問い直さざるを得なくなったことを論じている。理性を備えていることが世界における人間の優越性を示す、とは言えない状況に直面したとき、子どもに理性を育むことを主たる目的としてきた学校教育も相対化されざるを得ない。しかしながら、こうした状況下においても、人間が機械に支配されることなく、主体性を発揮することは期待され、学校教育がそのために一定の役割を担うことになる。人間の主体性を学校教育の中でいかに育むことができるかを、例えば、AI を使いながら世界にあふれる諸問題を解決する方法を考え出すような教育を行うことや、他者の多様な意見を聞き、多角的な視点から物事を考えていくような教育を行うことを示しながら論じることが、解答において期待される。生成 AI の飛躍的発展のような現代的テーマに関心を持ち、それを教育と関連させて考え、自らの考えを論理的に説明できているかを採点の観点とする。